

本稿は、5月20～21日に行われた「自治労連第63回中央委員会」での中央委員発言について、加筆・修正したものです。

会計年度任用職員の組織化めざし “誇りと怒りの1万人アンケート”に取り組む

自治労連愛知県本部
名古屋市職労

4月から職場を離れて専従役員として市職労本部にいます。よろしくお願いします。

私からは、組織強化・拡大についてとケア労働者の賃上げの2点について、名古屋市職労の取り組みを紹介します。

「組合の必要性」訴える姿に励まされる

まず、新規採用者の組合加入の取り組みです。現在の到達点は残念ながら例年よりも芳しくない状況です。加入率の低い、本庁への配属が多いことが苦戦の要因になっています。

厳しい状況ですが、前向きな話をしたいと思います。新規採用者に対しては、基本的に各支部、分会ごとに歓迎会を開催し、組合を紹介し、入ってもらうという流れです。その歓迎会に私も参加させてもらおうと、先輩組合員から組合がどうしても必要かということを変えて加入を訴えており、会議などでは見たことがない職場の組合員も「組合への想い」や「組合の必要性」を感じてくれているんだなど、非常に励まされるような場面が多くありました。

また、歓迎会で加入に至らなかった場合も、次の手に取り組んでいます。なかでも有効だと感じたのが新規採用者向けの賃金学習会の

開催です。この方法のいい点は、開催チラシを配布する際に声をかける機会ができること、丁寧な説明で組合への信頼を高めることができること、学習会終了後に声をかけやすくなることです。実際にこの方法で加入に至ったと報告も受けています。

各課で会計年度任用職員名簿を集めて

次に会計年度任用職員の組織化ですが、名古屋市職労は本部執行委員に2名の会計年度任用職員に入ってもらっています。その2名が中心になって組織化にとりくんでいます。2名のうちの1名の支部では未加入者も含めて会計年度任用職員をお昼休みに30名ほど集め、賃金制度説明会を開催し、3名の加入に結びつけています。この取り組みのすごいところは、会計年度任用職員は職員名簿に載っておらず、例えば隣の課でもどんな仕事の会計年度任用職員が何人いるか把握できないのですが、各課をまわり、各課がつくっているオリジナルの会計年度任用職員の載った名簿を集めてチラシを配布した点です。ただ会計年度任用職員の組織化の難しい点は、正規職員以上にさまざまな背景があり働いていますので、一概に「賃金を上げていこう」「休暇制

度を良くしていこう」だけでは刺さらないというところ。そのため、アンケート等を通じたニーズ調査の必要性を議論しているところで、今回、提起された誇りと怒りの1万人アンケートには名古屋市職労全体で積極的にとりくみたいと思います。

すべての職場から署名を集め

公立保育園職員の賃上げを

最後に、ケア労働者の賃上げの問題です。名古屋でも「公立保育園の職員も私立同様に賃上げを」と年度末に何度も当局に働きかけたり、保育職場から集まった署名の提出など取り組みましたが実現に至っていません。ただ交渉の中で、保育だけは難しいが、全体に波及するものとして1月平均の勤務時間を改善し、超過勤務手当の単価を3.8%引き上げる回答を引き出しました。

超過勤務手当の単価引き上げも大きな成果ですが、それだけではやはり満足できるはずはありません。現在は10月の交付税化のタイミングで保育職場への賃上げを果たすように、今度は保育職場だけでなく、すべての職場から署名を集めて実施を迫るとりくみを行っていきます。当局は今回、公立保育園で実施しているところが少ないことを実施しない理由にしていますので、全国のみなさんとともに取り組みを強め、賃上げを実現したいと思います。

みなさん、ともにがんばりましょう。